

大阪歴史博物館年報

平成 29 年度



大阪歴史博物館

平成 30 年 6 月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	5
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	8
教育普及事業	9
学校連携事業	11
ボランティア関連事業	12
連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携.....	12
文化庁補助金による多言語化の取り組み	14
広報宣伝活動	14
刊行物	14
調査研究活動	15
平成 29 年度入場者数.....	20
受嘱・派遣・視察	20
条例と規則	22
運営組織	24

はじめに

平成 29 年度の外国人入館者数は、ここ数年の傾向と同様に、全入館者数に対して高い比率を占めた。こうした状況に対応していくため、平成 28 年度から文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の補助金を活用した取り組みを実施し、本年度は展示概説映像の多言語版解説パンフ作成や英語テロップ追加、館内で活動いただいているボランティアへの外国語や異文化理解の研修などを行った。また、当館の外国人入館者全数調査（9 月 13～15 日）が実施され、調査当日入館者数の 5 割超を外国人が占めるという調査結果も判明した。今後も外国人来館者の動向に注視しつつ、引き続きエントランス周辺を中心に案内表示等について改善の取り組みを進め、来館された皆様が利用しやすい環境整備につとめていく。

特別展では、「渡来人いずこより」、「大相撲と日本刀」、「鑿の華」を開催し、学芸員の研究成果を活かした企画内容で評価をいただいた。また特別企画展「世界に誇る大阪の遺産」開催中の 10 月 31 日には、展示品の当館所蔵の朝鮮通信使資料（辛基秀コレクション）の一部がユネスコ「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録された。社会的にも大きな話題となり、当館の館蔵コレクションの存在感を示す出来事となった。

大阪市会で 2 月に大阪市の博物館施設の地方独立行政法人化に関する法人の定款案、評価委員会条例案が可決された。平成 31 年度の独立行政法人化に向けて、平成 30 年度は運営形態の大転換を迎える準備期間の一年となるが、博物館としての使命を果たし、質の高いサービスを提供できる施設であり続けられるよう努力していきたい。

大阪歴史博物館

展観事業

常設展示

● 10 階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている 5 世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

● 9 階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大阪の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

● 8 階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2 ヶ月程度の期間で実施している。

● 7 階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

● 難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群 16 棟のうち 1 棟が復元展示されている。

● タイムカプセル EXPO'70

昭和 45 年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する 2,098 点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には 2 基が埋設されているが、当博物館の 1 階北東のエスカレーター奥に、これと全く同じものを展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	古代難波の序章	大川北岸の古墳時代の須恵器・土師器	4月 5日～ 7月17日
10	古代難波の序章	難波出土の加耶・新羅・百済土器	7月19日～
10	古代難波の序章	難波宮前夜の土器	2月 7日～
10	前期難波宮の姿を求めて	難波宮南西の谷出土の木製品	9月20日～12月27日
10	前期難波宮の姿を求めて	小型鴟尾、瓦展示	1月 5日～
10	難波京の風景	土馬	1月 5日～
10	難波の寺々	墨書土器	4月 5日～
10	特設展示コーナー	森の宮遺跡出土の他地域の縄文土器	5月17日～ 7月17日
10	特設展示コーナー	古代の刀子と大刀	7月19日～ 9月11日
10	特設展示コーナー	難波津想定地出土の古代の土器	9月13日～12月11日
10	特設展示コーナー	大阪市内出土の漁具	12月13日～ 3月19日
10	特設展示コーナー	上町台地の古墳関連資料	3月21日～
9	大坂本願寺と寺内町	教如書状	8月29日～
9	まちの生活	平瀬露香	5月31日～ 7月24日
9	まちの生活	川口遊里図屏風	7月26日～ 8月28日
9	まちの生活	松前江差屏風	7月26日～ 8月28日
9	まちの生活	生人形と見世物興行	8月30日～11月13日
9	まちの生活	風俗図屏風・花鳥図屏風	11月15日～12月18日
9	まちの生活	御所解小袖	12月20日～ 1月29日
9	まちの生活	雛人形	1月31日～ 3月12日
9	まちの生活	吉村周山 群仙図屏風	3月14日～
9	町人の文化	大坂四条派の絵画	4月11日～ 5月29日
9	町人の文化	近世後期の大阪の絵画	8月23日～11月13日
9	町人の文化	秋を画題とした近世大阪の絵画	11月15日～12月25日
9	町人の文化	新春にちなむ近世大阪の絵画	12月27日～ 3月12日
9	町人の文化	花の近世大阪絵画 梅・桜・桃・牡丹	3月14日～
9	町人の文化	歌川貞秀 大坂名所一覧	5月17日～12月25日
9	町人の文化	上方浮世絵貼交帖	12月27日～
9	幕末・維新の大阪	天保期の社会情勢	5月30日～12月11日
9	幕末・維新の大阪	大塩平八郎の評価	12月13日～
7	近代都市の建設	ガラスと近代建築	11月29日～
7	都市の構造	白米一升購買補助券印刷見本	1月31日～
7	地域のなかの戦争	戦時下の子どもの雑誌	8月 2日～
7	美術・工芸の諸相	近代の屏風「山中閑居図（左隻） 木島桜谷筆」	4月 5日～ 7月31日
7	美術・工芸の諸相	大阪のやきもの 大河内焼	5月16日～
7	美術・工芸の諸相	阪井俊政の刀装具（夏の意匠）	7月26日～12月25日
7	美術・工芸の諸相	昭和戦前期の刀剣	8月 2日～12月25日
7	美術・工芸の諸相	近代の屏風「百騒一睡図 竹内栖鳳筆」	12月27日～ 2月12日
7	美術・工芸の諸相	阪井俊政の刀装具（新春にちなんで）	12月27日～
7	美術・工芸の諸相	近代の屏風「山中閑居図（右隻） 木島桜谷筆」	2月14日～
7	祭り与人々	せともの祭の絵葉書	6月21日～
7	上方芸能の展開	上方舞 榎茂都流（舞踊譜、初代扇性像ほか）	1月26日～
7	市場とデパート	骨屋町市場平面図	11月 1日～
7	引札と広告	新年の引札	12月20日～ 1月29日
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月31日～ 3月26日
7	引札と広告	諸商の引札	3月28日～
7	都市の民間信仰	大阪の小絵馬・授与品	4月 1日～12月25日
7	都市の民間信仰	宮脇コレクションと犬の郷土玩具	1月 5日～ 1月29日
7	都市の民間信仰	浪華宝船会の宝船	1月31日～ 3月26日
7	都市の民間信仰	大阪の小絵馬・授与品	3月28日～
7	鴻池家の生活用具	冬の調度品	11月15日～
7	写真パネルコーナー	建築史家・林野全孝と近代建築調査	5月17日～10月 2日
7	写真パネルコーナー	日本建築協会旧蔵 大阪の建築写真	11月29日～
7	映像コーナー	守れ我等の大空～戦時の防空演習～	7月26日～12月25日
7	映像コーナー	高津宮の初詣	1月 5日～

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●重要文化財指定記念 なにわの町人天文学者・間重富

会 期：平成 29 年 4 月 26 日～6 月 19 日

出 品 数：33 件 36 点

担 当：木土博成

本館および大阪市立中央図書館が所蔵する「間重富関係資料」（約 740 点、江戸時代後期）が重要文化財に指定されたことを受け、指定品のお披露目を兼ね展示した。「間重富関係資料」は、江戸幕府の改暦事業に従事した大坂の町人天文学者・間重富に関わる天文観測関係資料である。間重富は、西洋天文学の理論で測量結果を検証することにより、当時の天文暦学の発展に多大な貢献を果たした。本展示では、天体の測量記録を中心に、著述稿本をはじめとする文書、典籍、観測機器、地図・絵図など、それぞれのジャンルから優品を紹介した。また関連行事として、大阪市立科学館の嘉数次人氏を招き、6 月 4 日に展示解説を行った。

●大阪町めぐり 安治川と天保山

会 期：平成 29 年 6 月 21 日～8 月 28 日

出 品 数：約 30 点

担 当：八木 滋

大阪の地は瀬戸内海の東端に位置し、古代の難波津以来、港として栄え、江戸時代には「天下の台所」と言われるように全国的な流通の中心であった。しかし、港が淀川の河口にあるため、土砂が堆積しやすく、船舶の通行に支障をきたすこともあった。そこで、安治川が開削されたり、安治川河口の浚渫が行われ、その土砂で天保山ができた。その後天保山は、観光名所や異国船に対処するための台場、港へとさまざまに変遷をみせたのであった。本展示では、江戸時代から明治時代にかけての安治川や天保山を中心として大阪の港の移り変わりを紹介した。主な展示品としては「浪花百景 下安治川随見山」、「浪花大砂運衣裳附 天保 2 年（1831）」、「築港建設につき寄付請取証 明治 6 年（1873）」（いずれも館蔵品）がある。

関連行事として展示解説を 7 月 15 日・7 月 17 日・8 月 11 日・8 月 19 日に、「大阪町あるき—安治川・天保山—」を 6 月 11 日に実施した。

●新発見！なにわの考古学 2017

会 期：平成 29 年 8 月 30 日～11 月 13 日

出 品 数：約 300 点

担 当：李 陽浩

共 催：（公財）大阪市博物館協会 大阪文化財研究所

平成 28 年度に大阪文化財研究所が行った大阪市内の主要な発掘成果について、新発見の遺跡なども含めて、区ごと・遺跡ごとに紹介した。代表的な遺構・遺物としては、江戸時代の角細工に使われたスイギュウの角（中央区大坂城下町跡）、後期難波宮西方で見つかった古代の建物群（中央区難波宮跡）、津守氏の居館の堀と思われる大溝から出土した室町～戦国時代の土器群（住吉区

住吉行宮跡）、速報展示として古墳時代の方形周溝墓から出土した首飾りに用いられた管玉（平野区喜連西遺跡）などがある。

関連行事として、講演会「大阪の歴史を掘る 2017」を 9 月 23 日に開催し、展示解説を 9 月 2 日、10 月 7 日、11 月 4 日に実施した。

●鴻池研究の現在

会 期：平成 29 年 11 月 15 日～平成 30 年 1 月 8 日

出 品 数：81 件 98 点

担 当：中野朋子

平成 7 年（1995）1 月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけとして、大阪を代表する両替商・鴻池善右衛門家に伝来した 590 件 3,300 点を超える資料群が大阪市に寄贈されて 20 年を迎えたことを機に、大阪歴史博物館が精力的に進めてきた鴻池研究の成果を振り返り、今後の課題を提示した。また近年の鴻池家旧蔵染織品に関する共同研究の成果の一部を初公開し、その歴史的価値と魅力について紹介し、大阪随一の両替商・鴻池家の歴史と文化について再認識していただくきっかけとした。

期間中の平成 29 年 12 月 2 日に展示解説を、12 月 9 日に当館外部研究員である佐藤留実氏（五島美術館）を招き、関連講座「時代裂の魅力—鴻池家伝来染織品の位置づけを中心に—」を開催した。また、体験学習として、11 月 25 日にちょびっと体験「“織りもの”のしくみ」、12 月 23 日にちょびっと学習「“模様”でつくるポストカード」を開催した。

●ほのぼの俳画、生田南水

会 期：平成 30 年 1 月 10 日～2 月 26 日

出 品 数：30 件

担 当：岩佐伸一

現在の天王寺区にあった上之宮の神官を勤めていた家に生まれた生田南水（1860～1934）は、和漢の歴史や文学に通じ、在世時には大阪を代表する博学者・著述家として知られていたが、現在では女流画家生田花朝の父として名が挙がることが多い。彼は俳諧の宗匠として、また『四天王寺と大阪』（明治 43 年）の出版や芦辺踊（大阪の芸妓による歌舞）の作詞などの活動のほか、軽妙な筆致や穏やかな彩色による絵と流麗な書体がみごとに合致した俳画を多数残している。本展では、大阪市内在住の有本幸子様よりご寄贈いただいた南水の俳画を主とし、関連資料とあわせて彼の多彩な活動を示した。それと同時に絵と文字が一体となった書画の作品、いわゆる画賛物のうち大阪に縁のある作品の展示を通して、近世から近代にいたる韻文学と書と絵の展開の様相を示した。関連行事として 1 月 20 日と 28 日に展示解説を行った。

●新収品お披露目展

会 期：平成 30 年 2 月 28 日～ 5 月 7 日

出 品 数：約 40 件

担 当：内藤直子

大阪歴史博物館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めるために活動している。当館では毎年、この目的に沿うような資料の収集に努めるとともに、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料についても保管し、研究や展示等に活用を図ってきた。今回の展示では、近年新たに館藏品となった数多くの寄贈品の中から未公開のものを中心に、約 40 件を紹介した。

おもな展示品は、「伝単」（行俊良雄氏寄贈）、「牡丹詰文花鳥人物図井」（中罵ちせ子氏寄贈）、「豊原国周 愛宕館芝浦八景」（行俊良雄氏寄贈）など。

特別企画展

●世界に誇る大阪の遺産—文楽と朝鮮通信使—

会 期：平成 29 年 9 月 30 日～

11 月 26 日

出 品 数：文楽 152 点

通信使 28 点

担 当：澤井浩一（文楽）、
大澤研一（通信使）、
岩佐伸一

主 催：大阪歴史博物館

共 催：駐大阪大韓民国総領事館
韓国文化院（通信使）



大阪にゆかりの深い文化財は、世界的にみても魅力的で歴史的に意義深いものが少なくない。そのなかから文楽、朝鮮通信使という二つの文化遺産について、館藏品を通じて紹介した。

人形浄瑠璃文楽は、大阪で生まれ、大阪の人々が支えてきた伝統芸能で、太夫・三味線・人形が一体となる総合芸術といわれており、平成 20 年（2008）にはユネスコ無形文化遺産に登録された。今回は、近年寄贈を受けた人形髪見本や文楽の興行ポスター等を通じて、舞台を支える活動や昭和の文楽史の一端を紹介した。

朝鮮通信使は、「朝鮮通信使に関する記録」として次のユネスコ記憶遺産登録を目指していた（会期中の 10 月 31 日に登録）。江戸時代に朝鮮から日本を 12 回訪れ、両国の善隣友好のシンボルといえる朝鮮通信使は大阪にも多くの足跡を残した。今回は当館所蔵の登録品 11 点を含む朝鮮通信使資料の優品を紹介した。

本展の総括を 12 月 12 日に実施した。

◇関連イベント

●展示解説

「文楽」10 月 14 日、11 月 3 日

「通信使」10 月 28 日、11 月 23 日

- 韓日交流トークイベント「新時代の朝鮮通信使」鄭成一氏（韓国・光州女子大学教授）「韓国の「朝鮮通信使」研究と「世界記憶遺産」登録の推進」、尹芝恵氏（西南学院大学准教授）「イギリスで発見された通信使の船団図」、大澤研一「大坂の通信使と川御座船図」10 月 21 日

特別展

●第 61 回特別展 渡来人いずこより

会 期：平成 29 年 4 月 26 日～
6 月 12 日

開館日数：43 日

入場者数：21,436 人

出 品 数：460 件

図 録：A4 判、150 頁

担 当：寺井誠、松本百合子、
豆谷浩之

主 催：大阪歴史博物館

後 援：駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院

特別協力：美浜町教育委員会



本展では、近畿地方やその周辺地域で出土した主に古墳時代の朝鮮半島系資料を展示した。当時の朝鮮半島は三国時代であり、新羅や百済、加耶といった国々に分かれており、それぞれで個性的な文化を持っていた。それゆえに朝鮮半島からの渡来文化、さらにはそれをもたらした渡来人の「出身地」にスポットを当てることによって、当時の具体的な交流像をビジュアルに描くことを試みた。また、近畿地方以外の地域の朝鮮半島系資料を展示しながら、中央を介さない対朝鮮半島交渉も存在することを示した。

こうしたテーマに沿って説明をしたことにより、渡来文化の多様性、日本列島各地での渡来文化受容の独自性を観覧者に伝えることができた。

本展の総括を 7 月 25 日に実施した。

◇おもな展示資料

- 銀錯貼金環頭大刀 宮山古墳出土（国指定重要文化財、姫路市教育委員会蔵）
- 熨斗 高井田山古墳出土（柏原市指定文化財、柏原市立歴史資料館蔵）
- 角杯 赤根川金ヶ崎窯跡出土（明石市教育委員会蔵）

◇関連イベント

- トークイベント 1500 年前の韓日交流 半島と列島を行き交いて（韓国文化院主催、大阪歴史博物館共催）5 月 20 日
- 「渡来人いずこより」スライド会 5 月 27 日
- 展示解説 4 月 29 日、6 月 3 日

●第 62 回特別展 大相撲と日本刀

特別展「大相撲と日本刀」

会 期：平成 29 年 7 月 8 日～
8 月 28 日

開館日数：46 日

入場者数：22,313 名

出 品 数：170 点

図 録：A4 判、26 頁

担 当：飯田直樹、杉本厚典、
内藤直子、松尾信裕

主 催 者：大阪歴史博物館、産経新聞社、サンケイスポーツ、一般社団法人全日本刀匠会事業部

協 賛：ネスレ日本

協 力：公益財団法人日本相撲協会相撲博物館

企画協力：全日本刀匠会、株式会社テレビせとうちクリエイト



本展は、歴代の名横綱が所持した太刀など、大相撲にゆかりのある日本刀にスポットを当てながら、刀匠の技術や刀剣美に加えて、これまで紹介される機会の少なかった、相撲における刀剣の意味や、横綱の歴史に着目し、相撲文化の新たな一面を紹介した。あわせて、横綱の化粧廻しや相撲絵など相撲関係資料を紹介するとともに、大阪歴史博物館が収集してきた大阪相撲に関する資料も展示し、公益財団法人日本相撲協会の源流の一つである大阪ゆかりの相撲集団の歴史についても紹介した。

本展の総括を10月17日に実施した。

◇おもな展示資料

- 江戸大相撲生写之図（相撲博物館蔵）
- 横綱白鵬翔 土俵入り太刀（個人蔵）
- 大阪大相撲之図（本館蔵）

◇関連行事

- 講演会 高埜利彦氏「江戸の相撲」 8月13日
- タニマチ寄席 7月15日
- 展示解説 7月29日、8月15日、8月27日
- 山崎武司さんトークショー 7月17日
- NESCAFÉ 芝田山親方トークショー 8月5日
- 二十五代藤原兼房刀匠トークショー 8月12日
- プレートの銘切り 会期中の土・日・祝8回
- 最強力士総選挙 7月8日～8月7日
- 紙相撲 会期中の木・金14回
- 円心流居合据物剣法演武披露 7月30日

●第63回特別展

鑿の華—光村コレクションの刀装具—

会 期：平成30年1月23日～3月18日

開館日数：44日間

入場者数：15,021人

出品数：約200件

図 録：A4判、200頁

担 当：内藤直子、村元健一、大澤研一

主 催：大阪歴史博物館、産経新聞社、文化庁

後 援：サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、ラジオ大阪、関西テレビ放送



刀装具とは刀剣外装（拵）の金具。江戸時代以降に装飾性が増し、金属とは思えないほどのきらびやかで細密な作品が作られた。

大阪生まれの実業家・光村利藻（1877～1955）はそうした刀剣刀装具の技術に魅せられて、3000点以上にのぼる一大コレクションを築き、また刀装具の名品を集めた『鑿廻花』を刊行した。

その後コレクションは明治42年（1909）に光村の手を離れ、一括して初代根津嘉一郎（1860～1940）の蔵するところとなった。現在も根津美術館には約1200点が伝わり、依然として我が国最大級の刀装具コレクションである。

この展覧会では根津美術館所蔵の光村コレクションの作品を中心に、光村利藻の足跡と彼が魅せられた美の世界を、刀剣や絵画作品を交えた約200点で紹介した。

本展の総括を4月17日に実施した。

◇おもな展示資料

- 重要文化財 聖衆来迎図大小揃金具 後藤一乗作 個人蔵
- 重要文化財 大森彦七図鐺 利寿作 個人蔵
- 鍾馗鬼図大小鐺 松尾月山作 根津美術館蔵

◇関連イベント

- 講演会「光村利藻が残したもの—美術品としての刀装具“発見”」内藤直子 平成30年2月11日
- 学芸員による展示解説 平成30年2月23日

資料収集

平成29年度は、寄贈によって新たに件点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成29年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	3,027	0	0	3,027
美術	1,409	0	0	1,409
考古	0	0	0	0
民俗	5	0	0	5
芸能	47	0	0	47
建築	231	0	0	231
	4,719	0	0	4,719

●館蔵品総点数（平成30年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	81,250	9,143	86	90,479
美術	8,137	1,648	3	9,788
考古	7,025	4,765	6,178	17,968
民俗	4,837	2,485	2	7,324
芸能	10,727	1,029	3	11,759
建築	5,969	0	27	5,996
	117,945	19,070	6,299	143,314

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を6月、9月、2月の計3回実施した。また、6月から7月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

●橋本忠之氏寄贈印版手コレクション

印版手コレクターである橋本忠之氏のコレクションから主要なものの寄贈を受けた。常設展示等での幅広い活用を予定している。



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇伊藤純氏寄贈資料 生駒宝山寺絵葉書	10 枚
◇大野煌子氏寄贈資料 写真「大阪駅販売店営業 辻橋商店」	1 葉
河川改修工事写真	3 葉
◇木津宗人氏寄贈資料 木津家伝来平瀬家文書	2,684 点
◇木村和世氏寄贈資料 村上寅太郎所用マントを含む村上寅太郎関係資料	84 点
◇佐藤玄三男氏寄贈資料 藤島初次郎ほか肖像写真（切り取り）	4 点
◇重田義治氏寄贈資料 刀鍛冶免許状	1 通
鍛冶古法掟	1 通
祐天命号札	1 点
◇関下康司氏寄贈資料 卒業記念写真帖（天王寺第三尋常小学校）	1 冊
卒業記念写真帖（天王寺第二尋常高等小学校）	1 冊
卒業記念写真帖（天王寺第三尋常小学校）	1 冊
新天地奉祝写真	1 枚
源泉徴収票（千日土地建物株式会社→寺内儀一）	1 通
アルバム「Photo graphs」	1 冊
野球カード（大毎別当外野手）	1 枚
幼稚園卒園写真	1 枚
身分証明書（日本橋中学校発行）	1 枚
写真（「アベノ百貨店家庭用品係」）	1 枚
写真（大阪市改良住宅と千代子）	2 枚
写真（「女子青年団」）	1 枚
写真（秩父宮妃見送）	1 枚
雇用写真（千代子用ほか）	8 枚
◇能登簡氏寄贈資料 『南海号』（大阪大観社）	1 冊
小学校講堂建設資金寄贈につき感謝状（三軒家西小学校 講堂建設委員長浅野藤太郎ほか→能登新六）	1 通
玉垣石柱寄進につき感謝状（八坂神社宮司→能登新六）	1 通
氏子総代として尽瘁につき感謝状 （大阪府神社庁長→能登新六）	1 通
社務所建設奉賛につき感謝状 （八坂神社宮司ほか→能登新六）	1 通
硫酸肥料株式会社 180 馬力発動機写真	1 葉
180 馬力発生機写真	1 葉
有効 100 馬力用吸入瓦斯発生器配置写真	1 葉
能登鉄工所製作品写真	1 葉
建物建設現場写真	1 葉
村田製材所写真	1 葉
祝試運転記念写真（製材所か）	1 葉
能登鉄工所製作品写真	1 葉
機械写真（COVEL 製）	1 葉
◇松本拓也氏寄贈資料 8 ミリフィルム「終戦後の大阪」	1 巻
◇宮武浩二氏寄贈資料 大阪市電方向幕を含む大阪市交通局関係資料	193 点
◇吉田静枝氏寄贈資料 箱「上奏」	1 個
上奏控（第四師団長鈴木莊六）	1 綴
飛行場受納式案内状（陸軍大臣→吉田竹三郎）	1 通
合祀通知状（靖国神社宮司→遺族御中）	1 通

遺族年金証書（厚生大臣→吉田竹三郎）	1 通
陸軍特別大演習終了後の賜餞案内状 （宮内大臣→吉田竹三郎）	1 通
受納証（靖国神社社務所→吉田ムメ）	1 通
玉串料への礼状（靖国神社社務所→吉田ムメ）	1 通

●美術

◇覺心郁子氏寄贈資料	
市松人形	1 体
市松人形	1 体
市松人形	1 体
市松人形	1 体
手遊び人形	9 体
雛百種	3 冊
◇川添千佐子氏寄贈資料	
波に松文様黒留袖	1 領
◇木下孝子氏寄贈資料	
金太郎文様宮参着	3 点
◇中蔦ちせ子氏寄贈資料	
山水図花瓶を含む藪明山資料	143 点
◇橋本忠之氏寄贈資料	
オランダ商館員図大皿を含む 橋本忠之印版手コレクション	1,129 点
◇馬場三吾氏寄贈資料	
飛鶴図刺繍振袖	1 領
白無垢	1 領
総鹿子振袖	1 領
紺綾地群鶴図着物	1 領
赤綸子地松文様繡紋振袖	1 領
◇深田誠一氏寄贈資料	
第四回国内勧業博覧会褒状「提籃」を含む 藤関係資料	60 点
◇福本恵一氏寄贈資料	
錫銚子	1 対
錫銚子	4 口
絵替わり錫茶托	6 枚
ろくろ引き文錫茶托	15 枚
錫小皿	4 枚
錫中皿	1 枚
錫楕円皿	1 枚
錫中鉢	1 枚
錫大鉢	2 枚
山水図錫小皿	1 枚
水辺に鳥図錫皿	1 枚
錫盃洗	1 対
福本鶴吉あて中村半兵衛書簡	1 通
◇三露榮一氏寄贈資料	
麒麟図刺繍名古屋帯	1 筋
花文刺繍帯	1 筋
◇森田まみ子氏寄贈資料	
白象唐子遊図皿	1 枚
扇図茶碗	1 口
風景図花瓶	1 口
風景図花瓶	1 口
風景図花瓶	1 口
花鳥風景人物図花瓶	1 口
子供遊風景図香合	1 合
風景図花瓶	1 口
梅唐草文茶碗	1 口
梅唐草文花瓶	1 口
旭日図茶碗	1 口

●民俗

◇大石楠媿氏寄贈資料	
婚礼記念写真	4 枚
婚礼道具写真帳	1 冊

●芸能

◇池田史朗氏寄贈資料	
SP レコード（芸能関係）	30 枚
◇深田誠一氏寄贈資料	
大宝青年団（笠屋町）関係写真	14 枚
◇山崎友紀・山崎瑠衣氏寄贈資料	
文楽人形首 文七	1 点
文楽人形首 小団七	1 点
文楽人形首 老女形	1 点

●建築

◇市野修氏寄贈資料	
育英聖堂平面図（青写真）	1 枚
市野昌氏旧蔵中村順平関係資料	1 部
◇伊藤泰三氏寄贈資料	
伊藤正文肖像写真	2 葉
伊藤正文自邸写真	3 葉
伊藤正文建築事務所 封筒・便箋	1 式
中之島風景 伊藤正文旧蔵	1 面
『國華餘芳』伊藤正文旧蔵	1 部
◇岡田聿之氏寄贈資料	
製図道具セット 岡田孝男所用含む岡田孝男建築資料	195 点
◇小野麻衣子氏寄贈資料	
高山法律事務所図面綴	1 部
◇株式会社ベルコ寄贈資料	
大阪新歌舞伎座 唐破風飾り	1 点
大阪新歌舞伎座 櫓幕	1 点
大阪新歌舞伎座 把手	1 組
大阪新歌舞伎座 真鍮製把手	1 組
大阪新歌舞伎座 手摺	2 点
大阪新歌舞伎座 階段手摺（親柱部分）	1 点
大阪新歌舞伎座 衝立	1 点
大阪新歌舞伎座 舞台下装飾板	1 点
◇室谷典子氏寄贈資料	
大阪合同運送株式会社新築落成記念	
昭和十三年五月贈岡崎保男殿	1 点
朝日新聞創立五十周年記念牌	1 点
大阪合同運送株式会社 竣工写真	1 葉
大阪信愛女学校校舎 竣工写真	1 葉
大阪貯蓄 竣工写真	1 葉
岡崎保男写真アルバム	1 冊
◇安本友信氏寄贈資料	
伊藤藤治郎住宅（安本家住宅）棟札	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）	
1 階応接室ステインドグラス	1 対
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）1 階応接室照明器具	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）2 階寝室ステインドグラス	1 対
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）2 階寝室照明器具	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）茶室波亀文鬼瓦	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）茶室扁額	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）床の間天袋雀文襖	1 対
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）カーテンレール	1 点
安本家住宅（旧伊藤藤治郎住宅）呼び鈴表示器	1 点

館蔵品の修復

平成 29 年度に修復した資料は下に掲げた表の通りである（3 件 95 点）。

名称	数量	修復概要
堀田コレクション	62 点	卷子装・裏打ち
鴻池家旧蔵古裂	27 点	折れ・しわの修復
刀剣研磨	6 口	錆の除去

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影

- 堀田コレクションのうち「百品考同封史料」ほか 443 コマ分を撮影し、紙焼き製本およびデジタル化を行い、資料の活用を図った。

(2) 写真撮影

- 56 点（美術工芸資料 24 点、建築資料 16 点、歴史資料 16 点）

(3) デジタルカメラ撮影

- 堀田コレクション「博物学資料集」ほか 2,499 駒分を撮影し、紙焼き製本を行い、資料の活用を図った。

●図書の入受（平成 30 年 3 月 31 日現在）

今年は新たに 9,773 件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈 9,398 件、特別観覧献本 57 件、移管 29 件、購入 242 件、自主刊行物の登録 47 件であった。蔵書は当館 2 階の学習情報センター「なにも歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

平成 29 年度は撮影 10 件（129 点）、実測 2 件（5 点）、閲覧 16 件（177 点）、掲載・掲出 213 件（841 点）放映 52 件（98 点）、デジタルオンデマンド 4 件（5 点）の計 1,255 件（297 点）の特別観覧があった。

※（ ）内は資料点数。

館蔵資料の貸出し 平成 29 年度に他機関に貸出した資料数は下に掲げた表の通りである（25 件 97 点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
三井記念美術館、 龍谷大学龍大ミュージアム	2	特別展「地獄絵ワンダーランド」	平成29年 6月30日～平成29年11月24日
産経新聞大阪本社	1	没後 20 年 司馬遼太郎展 「21 世紀 “未来の街角で”」	平成29年 5月29日～平成29年12月15日
公益財団法人五島美術館	1	特別展「光彩の巧み ー瑠璃・玻璃・七宝ー」	平成29年10月 6日～平成29年12月15日
久米美術館	3	特別展「美術工芸の半生記 明治の万国博覧会展〔Ⅲ〕 新たな時代へ」	平成29年10月 4日～平成29年12月20日
岡山県立博物館	1	特別展「備前刀 ー日本刀の王者ー」	平成29年 8月28日～平成29年10月27日
仙台市博物館	4	特別展「伊達政宗 ー生誕 450 年記念」	平成29年 9月20日～平成29年12月15日
和歌山県立紀伊風土記の丘	2	特別展「道が織りなす旅と文化」	平成29年 9月15日～平成29年12月20日
公益財団法人大和文華館	1	特別展「柳沢淇園 ー文雅の士・新奇の画家ー」	平成29年 9月26日～平成29年11月27日
八代市立博物館 未来の森ミュージアム	1	特別展「大笠鉦展」	平成29年10月10日～平成29年12月 8日
石川県立美術館	1	企画展「燦めきの日本画 ー石崎光揺と京都の画家たちー」	平成29年 9月 8日～平成29年10月31日
芦屋市谷崎潤一郎記念館	6	特別展「『春琴抄』 ー < 虚 > と < 実 > の迷宮 ー」	平成29年 9月 1日～平成29年12月22日

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
高槻市教育委員会	2	特別展「天下泰平と高槻城」	平成29年 9月12日～平成29年12月15日
公益財団法人 八尾市文化財調査研究会	3	特別展「河内木綿 ー河内から近江、そして最上へー」	平成29年 9月24日～平成29年12月 8日
群馬県立歴史博物館	1	企画展「海を渡って来た馬文化 ー黒井峯遺跡と群れる馬ー」	平成29年 8月29日～平成29年12月26日
公益財団法人前田教育会	12	前田教育会館開館 25 周年記念展示 「前田コレクション里帰り展」	平成29年10月 2日～平成29年12月 4日
大阪府立弥生文化博物館	9	特別展「海に生きた人々 ー漁撈・塩づくり・交流の考古学ー」	平成29年 9月12日～平成29年12月22日
兵庫陶芸美術館	1	特別展「弥生の美 ー土器に宿る造形と意匠ー」	平成30年 2月26日～平成30年 6月 8日
大分市教育委員会	1	特別展「威信の舞台 ーよみがえる大友館ー」	平成29年10月15日～平成29年12月24日
府中市郷土の森博物館	1	特別展「徳川御殿@府中」	平成30年 1月17日～平成30年 3月21日
九州国立博物館	1	特別展「王羲之と日本の書」	平成30年 1月20日～平成30年 4月17日
碧南市教育委員会	1	企画展「應仁寺と三河の蓮如上人展」	平成30年 1月 9日～平成30年 3月16日
福井市立郷土歴史博物館	15	特別展「江戸・京・大坂と城下町福井」	平成30年 3月 5日～平成30年 5月25日
奥田元宗・小由女美術館	1	特別展「平田玉蘊 美の交遊」	平成30年 2月16日～平成30年 4月30日
下関市立歴史博物館	11	特別展「朝鮮通信使 ー日韓間の平和構築と文化交流の歴史」	平成30年 1月15日～平成30年 3月31日
神奈川県立神奈川近代文学館	15	特別展「生誕 140 年与謝野晶子展 こよひ逢う人みなうつくしき」	平成30年 2月21日～平成30年 6月 1日

教育普及事業

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇第1期「美術・建築・民俗の研究」

5月26日「刀剣外装の美と歴史」 内藤直子 50名

6月2日「1950年代大阪の都市開発と建築」

酒井一光 94名

6月9日「近代大阪の荷車事情ーべか車を中心にー」

伊藤廣之 62名

◇第2期「都市おおさかの歴史と考古学」

7月14日「天保山ものがたり」 八木滋 136名

7月21日「相撲の周縁性 ー大阪相撲を例にしてー」

飯田直樹 73名

7月28日「町・筋・丁目ー豊臣・徳川期の都市と大坂城下町の空間構造からー」 大澤研一 139名

8月4日「豊臣期から江戸時代前半にかけての大坂の拡大過程」 松尾信裕 119名

8月11日「大坂周辺村落での年貢の集め方」

豆谷浩之 96名

◇第3期「学芸員の研究ノートから」

2月2日「三国魏の陵墓ー大化薄葬令の源流ー」

村元健一 70名

2月9日「古代の朝参と朝集堂」 李陽浩 55名

2月16日「壁を飛び越えた龍ー清朝磁器の受容についてー」 松本百合子 52名

2月23日「上町台地周辺の原始的漁」

安岡早穂 65名

3月2日「近代大阪の芝居と諸芸ー庶民文化史の立場からー」 船越幹央 58名

3月9日「三村幸一撮影の民俗写真について」

澤井浩一 45名

●館長講演会

6月24日「難波宮と複都制」 栄原永遠男 222名

●「7月28日は難波の日」講演会

7月28日「難波遷都の歴史を考えるー古代から明治維新までー」 積山洋（大阪文化財研究所学芸員）、「古代難波の対外交渉」 寺井誠 129名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー（大阪府教職員互助組合と共催）

11月8日「人形芝居と文楽」 澤井浩一 250名

●同志社女子大学講座「京のみやこと難波宮ー歴史と文化の重層性ー」（同志社女子大学と共催）

2月17日 260名

講演1「『源氏物語』夕顔巻の謎を解く」 吉海直人（同志社女子大学教授）

講演2「難波宮と古代の大坂」 李陽浩

博物館案内ツアー 松本百合子・岩佐伸一

●漢文講座「史料でたどる遣隋使」

- ① 2月4日 前半：漢文の基礎、後半：隋の歴史
村元健一 59名
- ② 2月12日「『隋書』などを読む」村元健一 59名
- ③ 2月18日「『隋書』などを読む」村元健一 54名

●考古学入門講座「渡来人」ゆかりの地を歩く」

- ① 5月21日「熨斗（のし）の出土地・高井田山古墳をめぐる」李陽浩 30名
- ② 5月28日「野島館長と歩く、四條畷の遺跡」野島稔（四條畷市立歴史民俗資料館館長）・村元健一 28名
- ③ 6月4日「長原遺跡に古墳時代の渡来人の足跡を訪ねて」杉本厚典 26名

●館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」

- ①7 9月15日「白村江前後の九州・大和そして難波－搬入された新羅・百済土器の検討から－」寺井誠 133名
- ①8 9月22日「ひとつの作品から始まった研究－刀装具から広がる美術史－」内藤直子 46名
- ①9 10月6日「難波宮下層遺跡の諸相」杉本厚典 95名
- ②0 10月13日「大坂にとって蔵屋敷とは何だったか？」豆谷浩之 141名

●金曜歴史講座「朝鮮半島の考古学」

（主催：大阪文化財研究所）

- ① 4月28日「弥生時代農耕の源流を探る－韓国先史時代農耕調査研究の最前線－」大庭重信（大阪文化財研究所学芸員）126名
- ② 5月12日「海峡を越えた先史人たちの交流－日本列島と朝鮮半島の旧石器・新石器文化」絹川一徳（大阪文化財研究所学芸員）124名
- ③ 5月19日「壁画古墳の昇仙思想－竈神塚の「天国への階段」から」南秀雄（大阪文化財研究所所長）127名

●なにわ歴博寄席 2018

「落語のなかの浄瑠璃語り」（落語ファクトリーと共催）
3月11日 232名
落語：「寝床」笑福亭喬介、「軒付け」桂米左、「胴乱の幸助」桂三風（落語ファクトリー）
ミニ講座：「素人浄瑠璃の隆盛」澤井浩一

●大阪町あるき「安治川・天保山」

6月11日 八木滋 37名

●日本刀を支える職人の世界

（公財）日本刀文化振興協会と共催 9月13日 50名
「日本刀の研磨工程について」阿部一紀（刀剣研磨師）
「拵の変遷と白鞘」高山一之・森隆浩（鞘師）
「白銀師の仕事」宮島宏（白銀師）

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説など

- ◇特別展「渡来人いずこより」（主催：駐大阪韓国文化院）
 - ・5月20日トークイベント「1500年前の韓日交流 列島と半島を行き交いて」パーソナリティー：浜村淳、講師：洪濟植（韓国福泉博物館館長）・亀田修一（岡山理科大学教授）、司会：寺井誠 246名
 - ・5月27日「渡来人いずこより」スライド会 寺井

誠 226名

- ・展示解説 4月29日 86名、6月3日 95名

◇特別展「大相撲と日本刀」

- ・展示解説 7月29日 42名、8月15日 57名、8月27日 72名
- ・7月17日「山崎武司さんトークショー」山崎武司（野球評論家・元楽天・中日所属プロ野球選手）85名
- ・8月5日「芝田山親方トークショー」芝田山親方（日本相撲協会、元横綱・大乃国康）・青柳万美（元NHKアナウンサー）154名
- ・8月12日「二十五代藤原兼房刀匠トークショー」二十五代藤原兼房刀匠（全日本刀匠会）97名
- ・7月15日 タニマチ寄席「相撲」落語：「幸助餅」林家菊丸 講談：「小野川と雷電」旭堂南海 110名
- ・7月30日「円心流居合拵物剣法 演武披露」241名
- ・8月13日「江戸の相撲」高埜利彦（学習院大学教授）141名
- ・7月8日～8月7日「最強力士総選挙」投票数 2,003名

◇特別展「鑿の華 光村コレクションの刀装具」

- ・2月11日講演会「光村利藻が残したもの－美術品としての刀装具“発見”」内藤直子 101名
- ・展示解説 2月23日 50名

◇特別企画展「世界に誇る大阪の遺産 文楽と朝鮮通信使」

- ・10月21日韓日交流トークイベント「新時代の朝鮮通信使－ユネスコ世界記憶遺産登録と研究の展望－」（主催：駐大阪韓国文化院）鄭成一（韓国光州女子大学教授）・尹芝恵（西南学院大学准教授）・大澤研一 180名
- ・展示解説 文楽：10月14日 20名、11月3日 15名
朝鮮通信使：10月28日 17名、11月23日 50名

◇特集展示「近代大阪と名望家」

- ・展示解説 4月1日 63名、4月8日 18名

◇特集展示「重要文化財指定記念 なにわの町人天文学者・間重富」

- ・展示解説 6月4日 33名

◇特集展示「大阪町めぐり 安治川と天保山」

- ・展示解説 7月15日 37名、7月17日 40名、8月11日 30名、8月19日 15名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学 2017」

- ・9月23日「大阪の歴史を掘る 2017」講演会「平成28年度大阪市内の発掘調査について」村元健一、「孝徳朝における難波の諸宮」市大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授）141名
- ・展示解説 9月2日 18名、10月7日 25名、11月4日 28名

◇特集展示「鴻池研究の現在」

- ・12月9日関連講座「時代裂の魅力－鴻池家伝来染織品の位置づけを中心に－」佐藤留美（五島美術館学芸員・当館外部研究員）・中野朋子 24名
- ・展示解説 12月2日 24名
- ・11月25日ちよびっと体験「“織りもの”のしくみ」中野朋子 15名
- ・12月23日ちよびっと体験「“模様”でつくるポス

トカード」中野朋子 39名

◇特集展示「ほのほの俳画、生田南水」

・展示解説 1月20日 6名、1月28日 12名

●展示解説

- ・特別展・特別企画展に伴う展示解説・みどころ解説計10回、参加者合計504名
- ・特集展示に伴う展示解説 計13回、参加者合計349名
- ・常設展示に伴う展示解説 計166回、参加者合計1,142人

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

①和同開珎の拓本でしおりをつくろう

毎月第2土曜日 午後2時～午後4時

4月8日29名、5月13日27名、6月10日13名、7月8日34名、8月12日19名、9月9日29名、全6回151名

②昔の瓦の拓本体験

毎月第2土曜日 午後2時～午後4時

10月14日27名、11月11日21名、12月9日24名、1月13日15名、2月10日30名、3月10日30名、全6回147名

③手作りおもちゃで遊ぼう

毎月第1・3土曜日（1月は第3のみ）、全23回1,560名

④綿くり・糸つむぎ体験 7月29日 計77名

⑤夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト体験」8月4日11名、8月5日9名

⑥考古学者になってみよう

11月5日8名・12日5名・19日9名・26日5名

⑦凧づくりと凧あげ 1月6日31名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を、1日6回、定員40名で学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成29年度は合計15,639人の参加があった。また、開館時の12時30分～13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計10,424人が見学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、特集展示開催などに合わせて、「犬(ワン)ダブルックス」(4/5～5/15)、「源氏物語」(5/17～7/3)、「夏休み子ども特集」(7/5～9/4)、「昔の名所・旅～お

でかけ案内～」(9/6～10/16)、「大阪検定2017」(10/18～12/4)、「なにわ笑話史」(12/6～4/2)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。29年度の入室者数は30,511名、書庫出納件数は168件、複写利用件数は711件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校教員を対象とした研修会へ学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れをおこなった。

●学校職員の研修の受け入れ

◇新規採用社会体験研修 8月3・4日

大阪市立南大江小学校教諭 2名

◇大阪府南河内郡太子町立中学校職員研修

対象：太子町立中学校教職員 26名

8月2日 松尾信裕「真田丸について」

その他、大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）が8月7日に予定されていたが、台風のため中止となった。

●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

6月8日・9日 大阪市立桜宮中学校 2名 職業体験

7月7日 大阪市立天満中学校 31名 学芸員講話・見学

10月5日 島根県立松江南高等学校 13名 学芸員講話・見学

10月11日 大阪府立高津高等学校 5名 職場訪問

10月13日 大阪府立今宮高等学校 27名 学芸員講話・見学

11月9日・10日 大阪市立東中学校 4名 職業体験

11月16日・17日 大阪市立咲くやこの花中学校 2名 職業体験

11月16日・17日 大阪市立真住中学校 2名 職業体験

11月17日 大阪市立天満中学校 職業講話（派遣）

2月1日・2日 大阪市立新生野中学校 2名 職業体験

2月15日・16日 大阪市立淀川中学校 2名 職業体験

●考古学体験教室

大阪文化財研究所と連携し、「考古学体験教室」を開催した。博物館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「AR難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、11月13・15～17・20日の5日間で、12校745名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は10大学50名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受

益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月21日～25日 大阪大学2名、大阪市立大学21名、大谷大学1名、関西学院大学1名、同志社大学2名

◇8月28日～9月1日 大阪大学10名、大阪市立大学4名、関西学院大学1名、京都橘大学1名、甲南女子大学1名、奈良大学4名、佛教大学1名、立命館大学1名

◇見学実習は、大阪大学、昭和女子大学他から計158名(4校)を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成29年度のボランティア登録者数は197名、活動日は休館日を除く毎日308日間、のべ活動人数は4,349名であった。

●各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班

(活動者86名、延べ活動人数1,937名)

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使ったプログラムの案内や説明を行った。5月5日と11月4日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ8名、5月4日と11月3日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ9名が協力した。

◇スタンプラリー・ハンズオン班

(活動者111名 延べ活動人数2,412名)

10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。また常設展示場内で体験型事業(ハンズオン)を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。

10階：大宮人になってみよう！(奈良時代の官人の服を着る体験)／大極殿の土台をつくってみよう！(大極殿基壇を組み立てる立体パズル)

9階：両替商になってみよう！(江戸時代の両替商を体験)／投扇興に挑戦！(的に扇を投げて点数を競う遊び)

7階：大阪名所双六をやってみよう！(明治時代の双六で遊ぶ)／きものを着てみよう！(昔の着物を着る体験)

以上、6種類の他、7・8月には「紙相撲」、2・3月には「浪花百景 貝合わせで遊ぼう！」をいずれも9階で実施した。

●研修

5月23日「特別展 渡来人いずこより」見学研修 77名

10月3日「特別企画展 世界に誇る大阪の遺産 -文

楽と朝鮮通信使-」見学研修 78名

3月10日「難波宮を歩く」52名

3月13日「特別展 鑿の華」見学研修 62名

●異文化理解研修・語学研修

平成29年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に伴う多言語化関連事業)により異文化理解研修と語学研修を実施した。

◇異文化理解研修 10月17・29日 112名

韓国・中国・東南アジア(仏教圏・イスラム圏)の歴史・文化・生活に詳しい外部講師による講演を行った。

◇語学研修 11月20日～12月10日 131名

外部講師による挨拶程度の会話文の講習を実施した。対象言語は3カ国語(英語・韓国語・中国語)で、1コースあたり全3回(週1回、各回2時間)を行った。また、語学研修および自己学習用にテキスト・音声CDを作成・配布した。

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で、3月10・13日に懇談会を開催した。

●平成29年度ボランティアの次年度継続

平成29年度に活動したボランティアの任期は、平成30年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者が20名あり、177名を平成30年度の登録者とした。同時に新規ボランティアの募集を行ったところ、50名の募集に対し、54の応募があり、書類審査並びに2・3月に各班4日の研修を行い、47名を登録予定者とした。これにより平成30年度は224名の活動を予定している。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き(公財)大阪市博物館協会企画調整課による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2017「海をめぐる歴史・文化・自然」

大阪市立難波市民学習センターにおいて1月19日から3週連続1日2講座(計6講座)開催し、当館からは2月2日に木土博成が「荒れる海-江戸時代の漂流ものがたり-」と題して講演した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館協会が、所管する4つの博物館・美術館と大阪文化財研究所の情報を掲載した情報誌第5号を発行し、当館も情報を掲載した。

●教員のための博物館の日2017

大阪市博物館協会が主催する、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する事業に参加した。第4回目を迎える本年は8月2日に開催され、60名の教員・教育関係者の参加があった。参加校の内訳は小学校37校、小中一貫校1校、中学校16校、高等学校3校、支援学校1校、大学1校、日本語学校1校であった。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪府教育センター附属高等学校、大阪教育大学が会員となり、年間利用者は順に282名、397名、51名、46名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。

市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一、澤井浩一
- 博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井誠、内藤直子
- 博物館展示論：大澤研一、豆谷浩之、八木滋、李陽浩、杉本厚典、中野朋子

包括連携協定企画の下記2事業に学芸員を派遣した

- シンポジウム「秀吉の三都」1月8日：「秀吉の城下町の形」松尾信裕
- 博学連携講座「再論！真田丸と大坂の陣」：11月6日「絵図・地図からみた真田丸の位置と構造」松尾信裕、11月13日「大坂冬の陣のなかの真田丸の戦い」大澤研一

館独自の連携事業としては下記を実施した。

- 研究プロジェクトへの派遣：大阪市立大学平成29年度戦略的研究「豊臣大坂城本丸・詰の丸の地下探査による復元研究」松尾信裕、大澤研一

●同志社女子大学との連携（共催事業）

- 2月17日 同志社女子大学講座「京のみやこと難波宮－歴史と文化の重層性－」講演と博物館案内ツアー

●関西大学との連携（出版）

平成30年2月、関西大学なにわ大阪研究センターと共編で『昭和の民俗と世相①－三村幸一が写した大阪・兵庫』を清文堂出版より出版した。

その他の連携事業

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年度も大念佛寺宝物館（平野区）と共催の「平野と大念佛寺展」を開催した。5月1～5日、入場者1,480名。

●大阪商工会議所との連携

「大阪の名宝2018」カレンダーの製作・発行に協力し、館蔵品の写真提供、資料解説をおこなった。

共催事業

●大阪歴史学会 現地見学検討会「難波宮下層遺跡と上町台地北端部の開発」

5月14日 見学会 南秀雄（大阪文化財研究所所長）、「大阪沿岸低地における古地理の変遷、その最新情報」趙哲済（大阪文化財研究所学芸員）、「大阪地域における先史・古代の漁撈活動の変遷と難波宮下層遺跡の評価」大庭重信（大阪文化財研究所学芸員）、「難波宮下層遺跡における手工業生産」杉本厚典、パネルディスカッション 130名

●科研費基盤（A）「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」（研究代表者：仁木宏）城下町科研大阪研究集会「豊臣期における大坂と摂河泉」

7月1日 59名、7月2日 46名

●関西考古学の日2017（主催：「関西考古学の日」実行委員会）

スタンプラリー・景品授与

7月15日～11月30日

●大阪市交通局「～開港がもたらした新しい風～ 大阪港ものがたり 浪曲・講演会」

8月26日 映像紹介「映像で見る川口居留地の歴史」、「聖歌隊による合唱」桃山学院中高聖歌隊、講演会「大阪港のあゆみ」八木滋、浪曲「空海」天光軒満月・虹友美 187名

●埋蔵文化財研究集会「第66回埋蔵文化財研究集会」

9月16日「江戸の瓦生産と近世瓦の展開」金子智（株）野村工藝社、「近世瓦の生産と流通－建造物を素材とした研究事例－」鳴海祥博（元（公財）和歌山県文化財センター）・武内雅人（元和歌山県教育委員会）、「大和の近世瓦」芦田淳一（総持寺）、「熊本城出土の近世瓦－刻印瓦と瓦師を中心に－」美濃口紀子（熊本城調査研究センター）

9月17日「大坂における近世瓦の生産と流通」市川創（大阪府教育庁）、「中国地方における近世瓦の生産と流通」乗岡実（岡山市教育委員会）、「四国における近世瓦の生産と流通～讃岐地域を中心に～」渡邊誠（高松市埋蔵文化財センター）、「文献資料からみた近世大阪の瓦生産と流通」豆谷浩之 128名

●大阪市（受託者：公益財団法人山本能楽堂）

「はじめての上方伝統芸能 SHOW vol.1」

10月5日 文楽：「一谷嫩軍記熊谷陣屋」豊竹靖太夫・竹澤宗助・吉田玉男 上方伝統芸能レクチャー：「～能・文楽・講談ってなに？～」新作講談：「敦盛の最期」旭堂南海 能のワークショップ 半能：「敦盛」林本大 162名

●公益財団法人土木学会関西支部 FCCフォーラム「あしたの城～城・石垣をつくる人、まもる技術／大坂城と熊本城～」

12月10日 「豊臣大坂城をつくった人びと」大澤研一、「城郭石垣を護り伝えるために」西形達明（関西大学名誉教授）、「熊本城石垣復旧を支える最新建設技術」森直樹（株式会社大林組） 70名

●榎茂都流型付研究会 平成29年度アーツサポート関西助成事業 上方舞榎茂都流型付研究会「第一回研究発表会」

1月28日 地歌「芦刈」「黒髪」「根曳の松」榎茂都流門下・菊央雄司 60名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年度以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として副会長・顧問へ就任しているほか、幹事会での助言や見学会等の行事へ講師派遣を6回おこない（21頁参照）、連携をはかった。平成29年度の会員数は243名（家族会員を含む）。

平成 29 年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	32	2,782
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	201	4,704
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	43	2,013
	石組み水路公開・AR 難波宮	4	294
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	1,848	15,639
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	2	28
	教育支援および職業体験	11	90
	考古学体験教室	12	745
	博物館実習・見学実習の受入れ	14	208
地域・その他連携事業	共催事業ほか	12	2,832
ボランティア関連事業	研修	4	269
合計		2,183	29,604

文化庁補助金による多言語化の取り組み

平成 29 年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」

平成 28 年度の継続として、当館、および公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・公益財団法人大阪市博物館協会・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪文化財研究所・大阪市立科学館・大阪新美術館建設準備室による実行委員会を構成し、「大阪市博物館施設の国際発信強化事業」について応募して採択された。

当館の取り組みとしては、①総合ガイド映像の多言語化（映像に英語テロップを追加）、②総合ガイド映像をもとにした多言語の解説パンフレット作成（日・英・中（簡体字・繁体字）・韓の 5 言語）、③ボランティア向けの外国語研修（英・中・韓の 3 ケ国語）および異文化理解研修、④ハンズオン事業案内板の多言語化（上記 5 ケ国語）、⑤スタンプラリーシートの多言語化の充実（従来の日・英に加えて中・韓を追加）、を実施した。

広報宣伝活動

館の活動を広く PR し、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が 435 件、特集展示関係が 185 件、館全体に関する内容・その他が 85 件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定（1 回）・英語版年間展示予定（1 回）・なにわ歴博カレンダー（62～65 号）を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日 2017

11 月 18・19 日の 2 日間、常設展示の観覧料を無料とした。計 3,743 名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度の当館のホームページに 448,981 件（累計 5,701,108 件）、1 日平均 1,230 件のアクセスがあった（前年度比で約 52%）。また、1 日の最大接続件数は 2,572 件（8 月 1 日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴博ブログ」・「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitter の公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。ツイート数は 1,127 件、3 月 31 日現在フォロワー数は 3,586 名である。

刊行物

平成 29 年度は下記 3 件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第 16 号』

A4 判 158 頁、平成 30 年 3 月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集 14 建築家・中村順平資料 2』

A4 判 95 頁、平成 30 年 3 月

●『共同研究成果報告書 12』

A4判 84頁、平成30年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては3テーマ、基礎研究においては3テーマを実施した。また平成29年度に行われた共同研究「中村順平の設計活動と建築教育に関する研究」の成果を『共同研究成果報告書』12に収録した。

各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇近年の発掘成果を基にした難波宮造営前後の都市様相に関する研究

担当：栄原永遠男、李陽浩、村元健一、寺井誠

外部研究員：積山洋（大阪文化財研究所）

◇鴻池家旧蔵名物裂についての研究

担当：中野朋子

外部研究員：佐藤留実（五島美術館）

◇中村順平の設計活動と建築教育に関する研究

担当：酒井一光

外部研究員：青木祐介（横浜都市発展記念館）、
海老名熱実、林要次

●基礎研究

◇館蔵品考古資料の新しいアーカイブ化（3Dデータ）に向けた調査・研究

担当：加藤俊吾

◇琉球使節への川御座船提供に関する基礎研究

担当：木土博成

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究（B）研究代表者：飯田直樹

「部落」対策事業として始まった大阪府方面委員制度の全国化とその限界についての研究

◇基盤研究（C）研究代表者：寺井誠

渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－

◇基盤研究（C）研究代表者：内藤直子

『塹廻花』編纂史料の整理と翻刻―幕末明治期の彫金工に関する基礎情報の集約のために

◇基盤研究（C）研究代表者：八木滋

17世紀大坂の都市開発についての研究

◇挑戦的萌芽研究 研究代表者：中野朋子

「天覧」でみる美術工芸振興についての研究

－天皇行幸は地方に何をもたらしたのか－

個人の調査研究活動

●栄原永遠男

●専攻分野

(1) 正倉院文書

(2) 東大寺史

(3) 古代難波地域史

●著述

編著『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史 I』全283ページ、東方出版、平成29年7月

共編著 栄原永遠男・佐藤信・吉川真司『東大寺の思想と文化（東大寺の新研究3）』全328ページ、法蔵館、平成30年3月

「藺田香融先生を偲んで」（『古代文化』69ノ2）pp.106～114、平成29年9月

「『東大寺要録』の原構造」（『論集 古代東大寺の世界－『東大寺要録』を読み直す－』ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集第14号）、pp.7～36、平成29年11月

「博物館は安心なところ（館長のよもやま話第11回）」（『道徳と特別活動』34巻11号（通巻407号））、p.1、文溪堂、平成30年2月

「月借錢解に関する基礎的考察」（『正倉院紀要』40）pp.1～42、平成30年3月

「奈良・平安時代初期の播磨」（『姫路市史』第2巻本編古代中世第2章）pp.73～146、平成30年3月

「正倉院文書からみた奈良時代の悔過」（栄原永遠男・佐藤信・吉川真司『東大寺の思想と文化（東大寺の新研究3）』）pp.443～494、平成30年3月

●口頭発表

「奈良時代の難波宮」南河内シニア文化塾、すばるホール、平成29年4月25日

「西京・北京・難波京」歴史講座「奈良時代を学ぼう！なぜ由義寺は建てられたのか」、八尾市歴史民俗資料館、平成29年5月28日

「難波宮と複都制」大阪歴史博物館館長講演会4、大阪歴史博物館、平成29年6月24日

「岸俊男先生の思い出を語る」岸俊男先生没後30年座談会（菅谷文則・中尾芳治・泉森皎・田島公と）奈良県立橿原考古学研究所、平成29年6月25日

「岸俊男先生の古代宮都研究」都城制研究会、大阪歴史博物館、平成29年7月1日

「聖武天皇と東大寺」枚方古代史友会、枚方市サンプラザ生涯学習市民センター、平成29年7月16日

「教科書に載っていない難波宮の歴史」教員のための博物館の日、大阪歴史博物館、平成29年8月2日

「道鏡と称徳女帝」大阪歴史博物館友の会、大阪歴史博物館、平成29年8月26日

「奈良時代における東大寺の悔過」華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、平成29年9月14日

「聖武天皇と恭仁京」KCC開設60周年記念講座日本古代史の散歩道、神戸新聞文化センター、平成29年10月1日

「前期難波宮と大化改新」大阪市立大学経友会ホームカミングデー講演、大阪市立大学学術情報総合センター、平成29年11月3日

「姿を現した難波宮」明治安田生命木曜会、大阪歴史博物館、平成29年11月22日

狭山池シンポジウム2017コーディネーター、大阪狭山市SAYAKAホール、平成29年12月3日

「複都制」再考」都城制研究会、大阪歴史博物館、平成29年12月16日

「蘇我氏から石川氏へー蘇我氏の魂ー」泉北教養講座、国際障害者交流センター、平成30年1月18日

「盧舎那大仏の鎮座」東大寺学講座、東大寺金鐘会館金鐘ホール、平成30年1月27日

「聖武天皇と紫香楽宮」KCC開設60周年記念講座日本古代史の散歩道（後期）、神戸新聞文化センター、平成30年2月4日

「請暇解・不参解の基礎的研究」正倉院文書の研究会、大阪市立大学、平成30年3月11日

「国史跡に指定される興道寺廃寺はどんな寺？」興道寺廃寺記念講演会、美浜中学校、平成30年3月21日

●その他

「東大寺東塔跡発掘調査のコメント」読売新聞、平成29年10月4日

「紫香楽・東山遺跡のコメント」NHKニュース、朝日新聞、毎日新聞、京都新聞、平成29年12月20、21日

「正倉院文書の森に分け入る1～4」私の日本語教室、NHKラジオ第2放送、平成30年3月3、10、17、24日

●伊藤廣之

●専攻分野

- (1) 日本民俗学
- (2) 環境民俗論
- (3) 都市民俗論

●著述

「近代淀川漁業の姿を探る」『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史I』東方出版、pp.249-268、平成29年7月

「大阪の張子玩具職人関係資料『柴垣清メモ』について」『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.67-72、平成30年3月

「外国人観光客の増加と多言語対応」『紫明』第42号、紫明の会、pp.94-95、平成30年3月

●口頭発表

「戦前大阪の節分と巻き寿司」近畿民俗学会1月例会、大阪歴史博物館、平成30年1月

●大澤研一

●専攻分野

- (1) 日本中世史
- (2) 都市史、宗教史
- (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

●著述

「近年における平安～豊臣初期大坂の都市研究の動向と課題ー上町台地地域を中心にー」『都市史研究』4、都市史学会、山川出版社、pp.76-83、平成29年11月

「通信使川御座船の船団編成について」『朝鮮通信使地域史研究』第2号、pp.3-25、平成29年11月

「『極秘諸国城図』所収「大坂真田丸」図および『諸国古城之図』所収「摂津 真田丸」図の再検討ー千田嘉博氏の大澤・松尾への批判に就いてー」(松尾信裕と共同執筆)『松江歴史館研究紀要』第6号、pp.26-39、平成30年3月

「豊臣大坂城下町の「筋」についてー都市建設過程からみた一試論ー」『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.19-32、平成30年3月

「泉南・紀北の一向一揆について」泉佐野の歴史と今を知る会編『連続講座報告集 今、明らかになる泉州・紀北の戦国時代』pp.94-118、平成30年3月

「大阪歴史博物館所蔵の通信使資料：辛基秀コレクション」한일문화교류기금편『조선통신사 기록물의 UNESCO 세계기록 문화유산』등재』pp.125-169、韓国 景仁文化社、平成30年3月

〔うえまち漫遊歴史問答南編〕1. 明治天皇駐蹕遺址、2. 関取猪名川の墓、3. 天王寺支線しのお廃線跡、4. 「鶴見橋」はあったのか、5. 「津守」の地名の由来、6. 上方演芸発祥の地、7. 「天王寺」の謎！、8. 紅葉の名所 壽法寺を訪ねて、9. 「日本最古の国道」を探る、10. 渡来文化の華開いた地、11. “阿倍野”の原風景、12. 台地の上で、漁労生活？『うえまち』No.145～156、pp.5、平成29年4月～平成30年3月

〔朝鮮通信使と大阪〕4. 「壬辰倭乱の痛み～大坂の被虜人たち～」、5. 「大坂の印象1～橋のまち～」、6. 「大坂の印象2～朝鮮書との出会い～」、7. 「大坂の印象3～通信使と大坂城～」、8. 「通信使を迎える1～大坂での準備～」、9. 「通信使を迎える2～大坂町人が見た通信使～」、10. 「通信使とともに来日した馬」駐大阪韓国文化院HP、平成29年5月～平成30年3月

●口頭発表

「地域社会のなかの大坂城下町ー豊臣期～徳川初期ー」『城下町科研』大阪研究集会「豊臣期における大坂と摂河泉」、大阪歴史博物館、平成29年7月

「大坂の通信使と川御座船図」〔韓日交流トークイベント新時代の朝鮮通信使 ユネスコ世界記憶遺産登録と研究の展望〕、大阪歴史博物館、平成29年10月

「大阪歴史博物館所蔵の通信使資料：辛基秀コレクション」〔韓日交際シンポジウム 朝鮮通信使記録物の「ユネスコ世界記録文化遺産」登載〕、ソウルケンシントンホテル、平成29年11月

「街区から考える近世城下町の空間構造ー豊臣大坂城下町を軸にー」『城下町科研』総括 シンポジウムII @大阪「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究(2)」、大阪市立大学、平成29年11月

「大坂冬の陣のなかの真田丸の戦い」〔大阪市立大学公開講座 博学連携講座「再論！真田丸と大坂の陣」〕大阪市立大学文化交流センター、平成29年11月

「解明！片岡愛之助の歴史捜査 #93 魔王信長誕生！元龜争乱完結編 將軍義昭追放までの3年」、BS日テレ、平成29年11月

「中世の大坂ー榎並地域を中心にー」〔第6回城東区

SARUGAKU 祭シンポジウム)、城東区民センター、平成 29 年 11 月

「豊臣大坂城をつくった人びと」[FCC フォーラム あしたの城 ~城・石垣をつくる人、まもる技術/大坂城と熊本城~] 大阪歴史博物館、平成 29 年 12 月

●澤井浩一

・専門分野

- (1) 畿内村落における祭祀組織の研究
- (2) 近畿地方を中心とした芸能史研究
- (3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

・著述

「浪花百景 住吉反橋」『大阪松竹座七月大歌舞伎番付』、pp.46、平成 29 年 7 月

『昭和の民俗と世相①—三村幸一が写した大阪・兵庫』清文堂出版、平成 30 年 2 月 (編集・分担執筆)

「三村幸一撮影写真のなかの近畿民俗学会」『近畿民俗』184 号、pp.61 ~ 64、近畿民俗学会、平成 30 年 3 月

・調査活動

平成 30 年 3 月 富田林市浄谷寺 西国三十三度行者調査

●松尾信裕

・専攻分野

- (1) 日本考古学
- (2) 中近世都市遺跡の研究
- (3) 城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

・著述

「城下町大坂の建設と拡大」城下町科研事務局大阪研究集会編『豊臣期における大坂と摂河泉』「城下町科研事務局」大阪研究集会資料集、pp.27-40、平成 29 年 7 月

「大坂町人が好んだ陶磁器」『館長と学ぼう 大阪の新しい歴史 I』、pp.95-128、東方出版、平成 29 年 7 月

「秀吉の城下町の形」公立大学法人大阪市立大学・公益財団法人大阪市博物館協会包括連携協定企画シンポジウム『秀吉の三都』、pp.11-32、平成 30 年 1 月

「第 6 章 地下に眠る城下町松江」松江市史編さん室『松江市史別編松江城編』、pp.374-414、平成 30 年 3 月 25 日

「古代・中世の船場地域の景観」『大阪歴史博物館研究紀要』第 16 号、pp.19-31、平成 30 年 3 月

「『極秘諸国城図』所収「大坂真田丸」図および『諸国古城之図』所収「摂津 真田丸」図の再検討 一千田嘉博氏の「大澤・松尾への批判に込めて」松江歴史館編『松江歴史館研究紀要』第 6 号、pp.26-39 (大澤研一と共同執筆)、平成 30 年 3 月

・口頭発表

「大阪の建設と拡大」『九条南小学校 社会を明るくする運動・成人教育講座』九条南小学校、平成 29 年 6 月

「城下町大坂の建設と拡大」『「城下町科研」大阪研究集会 豊臣期における大坂と摂河泉』、大阪歴史博物館、7 月

「難波津から渡辺津へ」『平成 29 年度大阪連続講座

海から見る水都大阪—大阪開港 150 年—』、大阪市立中央図書館、7 月

「大坂冬の陣と真田丸」『太子町立中学校職員研修』、大阪歴史博物館、8 月

「豊臣期から江戸時代にかけての大坂の拡大過程」『平成 29 年度なにわ歴博講座 都市おおさかの歴史と考古学』、大阪歴史博物館、8 月

「絵図・地図からみた真田丸の位置と構造」平成 29 年度博学連携講座『再論! 真田丸と大坂の陣』、大阪市立大学文化交流センター、11 月

「大阪の成り立ち」大阪観光ボランティアガイド第 11 期生研修、大阪歴史博物館、12 月

「秀吉の城下町の形」『秀吉の三都』シンポジウム、大阪市立大学田中記念館ホール、平成 30 年 1 月

●豆谷浩之

・専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学
- (2) 近世都市史
- (3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・口頭発表

「文献史料からみた近世大坂の瓦の生産と流通」第 66 回埋蔵文化財研究集会、平成 29 年 9 月

●松本百合子

・専攻分野

- (1) 考古学
- (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

・著述

「過墻龍文磁器—大阪出土の清朝青花と国産染付を中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第 16 号、pp.75-85、平成 30 年 3 月

・口頭発表

「飛鳥の古墳を巡る—孝徳天皇とその周辺—」大阪歴史博物館友の会 見学会、平成 29 年 7 月

「大阪市中之島蔵屋敷出土の貨幣形土製品」2018 出土銭貨報告会、尼崎市立小田公民館、平成 30 年 2 月

●酒井一光

・専攻分野

- (1) 建築史
- (2) 歴史的建造物に関する研究
- (3) 近代建築、寺社建築

・著述

「中村順平「スケッチブック」に描かれたキリスト教会建築について」『共同研究成果報告書 12』、大阪歴史博物館、pp.26-54、平成 29 年 3 月

『大阪歴史博物館蔵資料集 14 建築家七村順平資料 2』(共同執筆者: 林要次・海老名熱実)、pp.1-96、平成 29 年 3 月

●李 陽浩

●専攻分野

- (1) 建築史、都市史
- (2) 古代東アジア建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

●著述

「前期難波宮にみられる建築的ネットワーク」栄原永遠男編『館長と学ぼう大阪の新しい歴史Ⅰ』、東方出版、pp.7-38、平成29年7月

●口頭発表

「国庁・郡庁建築と前期難波宮」、第21回古代官衙・集落研究集会「地方官衙政庁域の変遷と特質」、奈良文化財研究所平城宮資料館、平成29年12月9日

●加藤俊吾

●専攻分野

- (1) 考古学・考古学史
- (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鍔鏡研究

●著述

「東京国立博物館所蔵今熊野亀塚瓦経と山根徳太郎旧蔵拓本」『MUSEUM』第671号、pp.7-24、平成29年12月15日発行 東京国立博物館

●村元健一

●専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城との比較研究

●著述

書評「佐川英治著『中国古代都城の設計と思想—円丘祭祀の歴史的展開』」『唐代史研究』第20号、pp.148-156、平成29年8月

●口頭発表

「日本都城制源流論の現在」、都城制研究会、平成29年7月1日

「南北朝時代の都城と陵墓」、東アジア比較都城史研究会、龍谷大学大宮学舎、平成29年7月16日

「中国都城と難波宮」、第29回かんたい明日香まほろば講座飛鳥宮・藤原京と中国の都城、関西大学東京センター、平成30年1月20日

「中国都城の日本への影響について—『周礼』との関わりを中心に—」、世界に伝えたい「飛鳥・藤原」の魅力 東アジアの宮と都～周礼を中心に～、明治大学、平成30年3月18日

●飯田直樹

●専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 地域社会構造史（近代都市史）と社会事業史

●著述

「書評 伊藤久志『近代日本の都市社会集団』」、『日本歴史』827号、pp.110-112、平成29年4月

「民生委員創設秘ストーリー」栄原永遠男編『館長と学ぼう大阪の新しい歴史Ⅰ』東方出版、pp.193-222、平成29年7月

●口頭発表

「大阪府方面委員制度の創設と警察社会事業」、福祉社会研究フォーラム（政治経済学・経済史学会）・部落問題研究所科研費研究「行き倒れに関する国際的比較地域史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」合同例会、東京大学、平成29年6月17日
「大阪における町共同体の解体過程について—高麗橋二丁目を事例にして」、公益社団法人部落問題研究所歴史研究会、部落問題研究所、平成29年10月22日
「大阪府方面委員制度と行き倒れ」、科研費研究「行き倒れに関する国際的比較地域史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」研究成果報告会（主催公益社団法人部落問題研究所、後援大阪歴史科学協議会・日本史研究会）、機関紙会館、平成30年3月17日

●寺井 誠

●専攻分野

- (1) 考古学
- (2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
- (3) 新羅・加耶系資料（角杯・鉄鐸・土器等）

●著述

『渡来人いずこより』大阪歴史博物館特別展展示解説図録、平成29年4月

「渡来系文物とその故地をもとめて—大阪歴史博物館特別展『渡来人いずこより』の紹介を兼ねて—」『目の眼』No.488 株式会社目の眼、pp.80-85、平成29年5月

「大阪細工谷遺跡の最近の調査成果」『季刊 韓国の考古学』2017 vol.37 周留城出版社（韓国）、pp.22-25、平成29年9月

「近畿地方の百済・馬韓系土器」『日本の中の百済』忠清南道歴史文化研究院（韓国）、平成29年12月

「渡来文化の故地と受容の多様性—近畿地方と岡山の集落資料を基に—」『日韓交渉の考古学—古墳時代—（最終報告書）」「日韓交渉の考古学—古墳時代—」研究会（福岡大学）、平成30年2月

●口頭発表

「朝鮮半島系土器—製作技法から見た朝鮮半島と日本の土器の比較—」大阪府高齢者大学校、平成29年10月

●調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C）16K03175「渡来文化の故地についての基礎的研究—新羅・加耶的要素を中心として—」により下記の資料調査を行った。

京都府下での鉄鐸・角杯・陶質土器等の調査（平成29年7月）、栃木・群馬県下での鉄鐸・陶質土器等の調査（平成29年8月）、福岡県下での鉄鐸・角杯・陶質土器等の調査（平成29年8・10月）、韓国慶尚南道での新羅・加耶関係資料の調査（平成29年9月・平成30年1～2月）、鹿児島・宮崎県下での鉄鐸・陶質土器等の調査（平成30年3月）

●中野朋子

・専門分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 上代裂の文様研究、近世服飾史、結髪史
- (3) 近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究

・著述

「鴻池家の茶の湯と道具蒐集一名物裂の蒐集と伝来に注目してー」、『名物裂の研究 鴻池家伝来の仕覆解袋』、国書刊行会、pp.227-234、平成30年1月
「関西教育博覧会の開催と大阪の名家」、『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.1-17、平成30年3月

・調査活動

平成29年12月、近代工芸品調査（大阪・個人宅）
科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究 15K12830「「天覧」でみる美術工芸振興についての研究ー天皇行幸は地方に何をもたらしたのかー」）により、東京、仙台のほか、京都、兵庫、奈良などで調査を行った。

●岩佐伸一

・専門分野

- (1) 美術史 (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方の絵画

・著述

「林園苑筆 禹治水図屏風」『國華』第1459号、pp.26-32、平成29年5月
資料紹介「『宝珠図 慈光寺実仲筆』について」『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.61-66、平成30年3月

●内藤直子

・専門分野

- (1) 刀剣外装・刀装具の研究
- (2) 近代大阪の工芸史研究

・単著

『「超絶技巧」の源流 刀装具』淡交社、平成29年11月

・論文

「刀装具へのまなざしー光村利藻、その情熱と冷静」特別展図録『鑿の華ー光村コレクションの刀装具』平成29年11月

「装剣金工・大月光興をめぐる人々ー絵師・岸駒との交流を中心に」『晝下遊樂（二）奥平俊六先生退職記念論文集』藝華書院、平成30年3月

・その他原稿

「刀装具に魅せられた男（上）光村コレクションの栄光と挫折」産経新聞、平成30年2月15日

「刀装具に魅せられた男（中）光村コレクションと大阪」産経新聞、平成30年2月16日

「刀装具に魅せられた男（下）100年ぶりに再開した下絵と鐔」産経新聞、平成30年2月18日

・講演活動

根津美術館スライドレクチャー 11月17日

根津美術館講演会「光村利藻が残したものー美術品としての刀装具“発見”」平成29年12月2日

大阪歴史博物館講演会「光村利藻が残したものー美術品としての刀装具“発見”」平成30年2月11日
香雪美術館講演会「明治時代の刀剣・刀装具蒐集ー財界人を魅了した金属の輝き」平成30年3月9日

●木土博成

・専門分野

- (1) 日本近世史 (2) 政治史 (3) 琉球

・著述

「海禁政策は琉球を対象とするか」『歴史学研究』967、pp.1-17、平成30年2月

●八木 滋

・専門分野

- (1) 日本近世史
- (2) 流通社会史、都市史
- (3) 市場社会、両替商、都市開発

・著述

「近世大坂・西道頓堀南側の開発過程」『部落問題研究』222、pp.2-25、平成29年9月

「『石川道子著作集 近世西摂津の都市と農村』（時評・書評・展示評）」『神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報』9、pp.123-129、平成29年12月

●杉本厚典

・専門分野

- (1) 日本考古学
- (2) 弥生土器・土師器の編年研究、GIS考古学

・著述

「難波宮下層遺跡における手工業生産」『ヒストリア』第264号、大阪歴史学会、pp.45-65、平成29年10月

「近代大阪における産業マップの作成ー金属及び器具・車両・船舶工業の事例ー」『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.33-64、平成30年3月

・口頭発表

「難波宮下層遺跡における手工業生産」大阪歴史学会現地見学検討会、大阪歴史博物館、平成29年5月14日

「外来系土器からうかがえる古墳時代初頭の地域間ネットワーク」京都大学考古学談話会大会、京都大学、平成29年11月11日

●安岡早穂

・専門分野

- (1) 日本文化史 (2) 考古学
- (3) 先史時代の漁撈活動

・著述

研究ノート「土錘からみた瀬戸内海周辺における網漁の選択性（予察）」『大阪歴史博物館研究紀要』第16号、pp.65-73、平成30年3月

「大阪平野の成り立ちと地域の発展」『河川』10月号第10号（通巻855号）、pp.7-9、日本河川協会、平成29年10月

平成 29 年度大阪歴史博物館入場者数

月	H 29 年度 常設展					H 29 年度 特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	17,146	878	18,024	4,858	22,882	716	44	760	1,441	2,201	25,083	5,607
5	18,612	1,696	20,308	7,998	28,306	3,794	262	4,056	8,237	12,293	40,599	7,308
6	16,880	679	17,559	7,817	25,376	1,991	210	2,201	4,741	6,942	32,318	6,832
7	24,289	1,285	25,574	5,071	30,645	4,035	294	4,329	3,832	8,161	38,806	7,593
8	24,369	1,395	25,764	6,548	32,312	6,349	626	6,975	7,177	14,152	46,464	6,907
9	15,555	588	16,143	4,366	20,509	0	0	0	0	0	20,509	5,894
10	19,676	1,459	21,135	9,515	30,650	0	0	0	0	0	30,650	5,120
11	15,149	2,038	17,187	15,661	32,848	0	0	0	0	0	32,848	6,884
12	13,189	751	13,940	6,545	20,485	0	0	0	0	0	20,485	5,918
1	15,664	708	16,372	4,818	21,190	324	24	348	936	1,284	22,474	4,244
2	16,918	553	17,471	5,344	22,815	2,381	186	2,567	5,351	7,918	30,733	5,370
3	15,226	935	16,161	5,667	21,828	1,657	125	1,782	4,037	5,819	27,647	5,577
合計	212,673	12,965	225,638	84,208	309,846	21,247	1,771	23,018	35,752	58,770	368,616	73,254
										総合計	441,870	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	国立歴史民俗博物館共同研究員	栄原永遠男
平成28年 4月 1日～平成29年10月31日	吹田市立博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成29年11月 1日～平成31年10月31日	吹田市立博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	松江市史専門部会（松江城部会）専門委員	松尾 信裕
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	和泉市史編さん専門委員	大澤 研一
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	八木 滋
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	平成 29 年度新作名刀展審査会及び第 70 回刀剣研磨・外装技術発表会審査会	内藤 直子
平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	飯田 直樹
平成29年 7月 1日～平成30年 3月31日	堺市博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成28年 7月 1日～平成30年 3月31日	多治見市モザイクタイルミュージアム収集品選定評価委員	酒井 一光
平成29年 7月27日～平成29年 7月28日	お守り刀展覧会運営委員会	内藤 直子
平成29年10月18日	東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会臨時委員	大澤 研一
平成29年10月19日	第 70 回刀剣研磨・外装技術審査会	内藤 直子
平成29年11月20日	文化庁 文化財の買取協議委員	内藤 直子
平成30年 3月15日	第 9 回「新作日本刀研磨 外装刀職技術展覧会」審査委員	内藤 直子
平成30年 3月24日～25日	松江市史専門部会	松尾 信裕

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/10	NPO 法人シニア自然学校	村元 健一
5/12	特定非営利法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
5/13	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/30	大阪歴史博物館友の会	松本百合子
6/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
6/18	大阪市立九条南小学校	松尾 信裕
7/ 2	大阪歴史博物館友の会	松本百合子
7/ 2	大阪歴史博物館友の会	安岡 早穂
7/ 8	大阪市立中央図書館	松尾 信裕
7/ 9	大阪府立中央図書館	八木 滋
7/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/ 1	駐大阪大韓民国総領事館	大澤 研一
8/19	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/ 1	特定非営利法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
9/ 9	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/24	すみよし歴史案内人の会	村元 健一
10/12	ユニオン映画株式会社	大澤 研一
10/14	喜連村史の会	豆谷 浩之
10/18	公益財団法人東京都歴史文化財団	大澤 研一
10/21	大阪歴史博物館友の会	八木 滋
11/17	公益財団法人根津美術館	内藤 直子
11/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
11/19	城東区ゆめ～まち～未来会議	大澤 研一
11/22	三菱商事株式会社関西支社 木曜会	栄原永遠男
11/26	甲南女子大学	李 陽浩
12/ 1	NPO 法人大阪観光ボランティアガイド協会	松尾 信裕
12/ 2	公益財団法人根津美術館	内藤 直子
12/ 3	大阪市立大学	飯田 直樹
12/ 8～ 9	独立行政法人国立文化財機構	李 陽浩
12/14	NPO 法人大阪観光ボランティアガイド協会	松本百合子
12/16	市立枚方宿鍵屋資料館	伊藤 廣之
12/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/20	関西大学社会連携部地域連携センター	村元 健一
1/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
2/ 2	公益財団法人大阪市博物館協会総務部企画調整課	木土 博成
2/ 3	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一

日付	派遣先	担当者
2/ 3	大阪市建設局企画部企画課	松尾 信裕
2/10	出土銭貨研究会	松本百合子
2/13	碧南藤井達吉現代美術館	内藤 直子
2/14	文化のとまり木－翠曜塾－	豆谷 浩之
2/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
2/18	公益財団法人守口市国際交流協会	大澤 研一
2/28	公益財団法人大阪都島区社会福祉協会地域包括支援センター	大澤 研一
3/ 5	碧南藤井達吉現代美術館	内藤 直子
3/ 9	公益財団法人香雪美術館	内藤 直子
3/11	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
3/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
3/18	明日香村役場総合政策課	村元 健一

視察

日付	来訪者	人数	対応者
5/22	シカゴ日本語弁論大会姉妹都市受賞者	3	入館のみ
5/24	ドイツ ハンブルク市	18	入館のみ
6/10	韓国義城郡	5	大澤 研一
7/24	サンフランシスコ親善大使	3	入館のみ
9/20	オーストラリア中学生	26	入館のみ
10/18	中国深せん市団長	9	松本百合子
10/22	サンフランシスコ市代表团	33	澤井 浩一
10/23	台北市役所	8	豆谷 浩之
11/ 5	韓国国会議員他	16	大澤 研一
11/16	岐阜県各務原市教育委員会	4	大澤 研一
12/ 4	シカゴ市議会議員等	3	入館のみ
12/21	韓国国立中央博物館他	14	大澤 研一
1/29	長浜市議会議員	3	大澤 研一
2/ 2	メルボルン市（姉妹都市交流遣学生）	2	入館のみ
3/ 1	タイ マヒドン大学	9	入館のみ
3/17	韓国 国立文化財研究所	4	李 陽浩

大学での非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
大阪大学	博物館学（概論）	加藤 俊吾
大阪芸術大学	服飾史	中野 朋子

条例と規則

○大阪歴史博物館条例

平成13年4月1日

条例第60号

大阪歴史博物館条例を公布する。

大阪歴史博物館条例

(設置)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前4丁目に設置する。

(目的)

第2条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(資料の寄贈又は寄託)

第4条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けすることができる。

(休館日)

第5条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
 - (2) 12月28日から翌年1月4日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
- 3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第6条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第7条 別表第1（省略）に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき

(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成30年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第10条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第11条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(特別研究の許可)

第12条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出の許可)

第13条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(利用料金)

第14条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額
- (3) 施設使用料 別表第1（省略）に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額）

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増し

の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

- 6 教育委員会は、前3項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。
- 7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
 - (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であつて教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

- 第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。
- 2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

- 第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。
 - (1) 破産者が復権を得ないもの
 - (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの
 - (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの
 - ア 第1号に該当する者
 - イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
 - ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

- 第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。
 - (1) 住民の平等な利用が確保されること
 - (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
 - (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

- 第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。
 - (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
 - (2) 建物及び設備の維持保全に関すること

- (3) その他博物館の管理に関すること
(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則（平成13年11月3日施行、告示第1155号）抄
(施行期日)

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2 大阪市立博物館条例（昭和35年大阪市条例第35号）は、廃止する。

附則（平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号）

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定（第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

附則（平成19年12月28日条例第106号）

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成21年11月26日条例第129号）

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通観覧料	団体（20人以上）観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教) 規則第5号

大阪歴史博物館規則（平成13年大阪市教育委員会規則第34号）を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例（平成13年大阪市条例第60号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管

理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表（省略）のとおりとする。

（指定申請の方法）

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書
- (3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。
- (4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類
- (6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類
- (7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類
- (8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書
- (9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第8条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第26号）は、廃止する。

附 則（平成22年3月26日（教）規則第11号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

運営組織

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

組織

館 長	栄原永遠男		
副館長	伊藤廣之		
総務課	課 長	大対好行	
	課長代理	下澤英之	
	係 員	川端優子	安田 縁 山本幸恵
		鈴木得記子	古賀寿生 三宅美智雄
企画広報課	課 長	澤井浩一	
	企画広報係	係 長	松本百合子
		主任学芸員	酒井一光
			李 陽浩
		係 員	柴田晃子
	情報資料係	係 長	加藤俊吾
		係 員	村元健一
			飯田直樹
			小林佳美
			宮下愛子
研究主幹	松尾信裕		

学芸課	課 長	大澤研一		
	課長代理	豆谷浩之		
	学芸第1係	係 長	寺井 誠	
		主任学芸員	中野朋子	
		係 員	岩佐伸一	
	学芸第2係	係 長	内藤直子	
		係 員	木土博成	
	学芸第3係	係 長	八木 滋	
		主任学芸員	杉本厚典	
		係 員	安岡早穂	柴田善美

人事

新規採用（平成29年4月1日）	副館長	伊藤廣之		
	総務課	課長代理	下澤英之	
	学芸課	係 員	安岡早穂	
転 入（平成29年4月1日）	企画広報課課長	澤井浩一		
	（公財）大阪市博物館協会総務部企画調整課より			
転 出（平成29年4月1日）	学芸課学芸第3係長	船越幹央		
	（公財）大阪市博物館協会総務部企画調整課へ			
	学芸課学芸第2係係員	勝本千賀		
	（公財）大阪市博物館協会総務部総務課へ			

大阪歴史博物館年報 平成29年度

平成30年6月15日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 株式会社中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun.2018